

平成 2 4 年 1 0 月 3 日

各 部 長
各 課 長

} 様

鶴 ケ 島 市 長

平成 2 5 年度予算編成方針について（通知）

平成 2 5 年度は、第 5 次鶴ヶ島市総合計画に掲げる市の将来像「鶴ヶ島は 元気に
する～明日につながる活力のまち 支えあう安心のまち～」を目指し、これまでの行
財政改革の成果を活かして、主要な事業に積極的に取り組む年である。そこで、下記
のとおり基本となる予算編成方針を定めたので、十分留意のうえ、柔軟かつ新たな視
点をもって予算編成作業に取り組まれない。

記

1 重点化する取組

総合計画に掲げる各施策の目的を達成するため政策・施策ミーティングを実
施し、各施策の現状及び課題等を踏まえて、「平成 2 4 年度実施計画策定の基本
方針（採択主要事業）」（別紙）を決定した。

平成 2 5 年度は、これを基本として事業を展開していくが、中でも次に掲げ
る事業は特に重点化して取り組むものとする。

・リーディングプロジェクトに関連する取組

総合計画に掲げた「水土里の交流圏の構築」の推進に合わせ、飯盛川ふるさ
と水辺整備事業を推進するとともに、農業大学校移転後の跡地利用について関
係団体と綿密な調整の上、市の将来に向けた最優先の施策として推進すること。

また、少子高齢化の進展に対応し、市民の持つ力を活かした「支えあいの仕
組みづくり」を推進する取組についても、事業の実現に向けて関係団体等との
調整を進め、予算を計上すること。

2 財源対策の十分な検討

平成25年度予算概算要求に基づく収支見込では、財源確保のため、多額の市債の発行と基金からの繰入れを実施しなければならない見込みである。

将来に向けた行政の継続性を確保するための基金残高の確保を図り、歳入においては、市税収入をはじめ、自主財源の確保に向けた取組を行うほか、見込み得る全ての財源を計上すること。

歳出では、全ての事業について、漫然と継続することなく、事業の効果と実施の適否、事業内容と適正な予算額について見直しを行うこと。また、重点事業といえども、後年度の財政負担を考慮して、「財源の許す適正な範囲で、事業目的達成のための最小の経費」で見込むこと。

3 編成作業の基本事項

(1) これまでの検討を活かすこと（通年予算）

事業内容の検討にあたっては、すべての事業において、各施策の現状と課題、通年予算として所管で進めてきた検討事項、施策ミーティング等での検討内容、別に示す主要事業一覧の市長指示事項等を踏まえ、最も効率的かつ効果的な手法を検討し、必要な予算を計上すること。

(2) 前例踏襲による安易な予算要求は慎むこと

事業の費用対効果を十分検討のうえ、民間委託、市民協働等による事業実施、関係課による連携や事業の隔年実施、後年度に回すことができる事業は回す等、柔軟な発想による事業手法の導入や組織体制にこだわらない合理的な取組を検討すること。

なお、過去の実績において執行率の低い事業又は執行残額が多い事業は、その理由を分析し、適切な事業規模となるよう執行方法の再検討や積算内容の見直しを行うほか、事業効果の薄れたものは積極的に廃止を検討すること。

(3) 人件費の抑制を考慮すること

年々増加する経常的経費の抑制を図るため、指定管理や業務委託などより効率的な事務事業の執行方法を検討し、義務的経費の大半を占める人件費の抑制に努めること。また、再任用制度の実施や臨時職員・嘱託員の雇用形態の見直しなどにあっては、極力最小の経費で最大の効果を挙げられるよう進め方を工夫すること。

4 財政上の課題を共有すること

別途、総合政策部長が示す「平成25年度予算編成における留意事項について（通知）」を十分に踏まえ、全職員が市の財政上の課題を共有した上で予算編成作業を行うこと。